母子相互作用の社会小児科学的検討

委託育児の現状と問題

加藤　翠（日本女子大学）
巷野悟郎（都立府中病院）
大塚昭二（東京家政学院大学）
松波昭夫（松波小児科）
田近陽子（日本女子大学）
林　和江（桜美林大学）

目　的

近年急増してきているわが国の委託育児の実情とその問題点を明らかにし，核家族化がすすみ共働き志向のたかまっている家庭に対して，社会や施策のあり方を考えて行く一助にすることを目的とした。

育児は乳幼児期で終るものではないが，委託育児には次のようなものがあり，主として乳幼児が対象となっている。

認可保育所……公立と私立とがある

無認可保育所
- 小規模保育室
- 事業所内保育所
- 病児保育所
- ベビーホテル

乳児院・養護施設……全託施設である。
児童相談所……措置までの一時保護を行う。
家庭福祉員……通称保育ママ
里親
ベビーシッター
幼　稚　園……長時間保育を行う所がある。
学童保育施設
その他季節保育所など。

方　法

前述のような種々の委託育児の中で，55年度には夜間保育を行っている施設の現状と，その問題を検討した。

前述の施設の中で夜間保育を行っている所は，全託の乳児院，養護施設と里親を除けば，院内保育所・キャバレー等の事業所内保育所・ベビーホテルなどである。これらの施設がどのくらいあるものかを，種々な資料をもとにして電話による質問確認と，一部訪問調査を行った。

また夜間保育委託児について，その母親と保育者の両方に質問紙調査を実施した。

施設訪問ができたのは，院内保育所5施設，ベビーホテル11施設，キャバレー等の接客業の事業所内保育施設3カ所であった。

結　果

ベビーホテルの数については，この研究班が結成された頃には諸説紛紛，1980年3月に業界の自主的な連絡機関である日本ベビーホテル協会が旗揚げした時，朝日新聞は会長紹介記事に全国で2000東京で300などともいわれると書いていたが，55年11月の厚生省調査では，全国に587施設を把握しており，52の不明を除く535施設の36%が24時間保育を，40%が朝から夜まで，夜間のみ（宿泊なし）9%，宿泊のみ2%，昼間のみ12%という保育形態別割合を出している。

これに対し今回都内23区のベビーホテルの夜間保育実施状況を調査した結果は，表Ⅰのようであった。中央・江東・台東の3区については対象施設を把握できなかった。電話により廃園を確認したのは5施設で，これは149の電話した施設の3%に相当する。

キャバレー等の保育施設の有無については，都内の204カ所の事業所に電話により質問した結果託児施設有66（32.4%），委託している38（18.6%），無100（49.0%）の割合であった。比較的小規模な所と高級クラブなどに保育施設が附設されていないように思われた。

院内保育所については，都内23区の39施設に電話により保育状況を質問調査した結果，午後6時半まで27（69.2％），午後8時から9時まで1（2.6％），24時間8（20.5％），廃園3（7.7％）となっていた。昼も夜も保育を行っていた所が8カ所あったとはいうものの，この中で毎日宿泊を行っている所は皆無で，隔日とか週に1～2回，看護婦の夜勤体制に合わせて夜間保育をする日もあるというのが実態であった。

これらの保育施設は，ベビーホテルでは40年以降，院内保育所では45年以降に設立されて，ここ1～2年の間に急増がみられたものであった。

訪問調査した22の保育施設の中で，5つの院内保育所はすべて1戸建であったが，半数はビルの中にあり，それも1階は1施設のみで，それ以外は2階以上にあり，周囲に自然環境が全く無いと判定された施設が57％にのぼっていた。騒音は，ふつうに話ができる57％，やや聞えにくい33％，話が時々聞えない10％となっていた。

保育日課は，午前中10時頃から設定保育を行い，昼食後ひる寝をさせて，おやつ，自由保育，お帰りまたは夕食，8時頃就寝といった大まかなパターンは，いずれの施設でもあまり変らなかった。

調査者が院内保育所とベビーホテルの保育者について，保育経験・人間性・子どもとのふれあいなど7項目についてＡＢＣの3段階評定を行った結果，院内保育所の保育者についての総合評価はＡ2，Ｂ2，Ｃ0となり，ベビーホテルの保育者についてはＡ8，Ｂ4，Ｃ1の総合評価が得られた。キャバレーの保育施設は，かなりかたくなに外部者に見せたがらなかったが，施設設備は劣悪で，保育者は単なる子ども番といった状況で，夕食はカップラーメンとコーラを持参して好き勝手に食べさせて，部屋の外には空いたボトルが散らばったままといった具合であった。しかし，子どもはきたない部屋の中で，友達と実に楽しそうにバタバタ遊んでいた。住めば都とはこういう事をいうのかもしれない。

保育者に母親の育児態度について質問した結果は，表Ⅱのようであって，ベビーホテルに比し院内保育所の方が良いという判定が少なく，保育者は母親の育児態度にきびしい判定をしていたといえよう。

夜間保育に対する保育者の考えを質問した結果は表Ⅲのようであって，複数回答式であったが，院内保育所の保育者の方がお泊りに対して批判的であり，ベビーホテルの保育者の方が，当然のことながら夜間保育に受容的であった。

保育者に対して，母親の要望を質問した結果，「連絡帳を見たり保母の話を聞いたりして，もっと子どもの事をよく知ってほしい」23％，「子どもともっとふれあいを長く持ってほしい」18％，「園の規則・時間を守ってほしい」14％，「甘やかしすぎないでほしい」14％，「園の教育方針に協力してほしい」14％などが高率なものであって，一般に保育者は夜まで子どもを預けることに批判的で，母親に育児責任を強く求める姿勢がうかがわれた。

質問紙調査で回答の得られた夜間保育児の家族状況は表Ⅳのようで，ベビーホテルの夜間保育児は不明が29％もあった上に，母子家庭29％，父子家庭4％，両親揃っている家庭の場合でもひとりっ子が圧倒的に多かった。これに対して院内保育所の保育児は，片親家庭は全くみられず，ひとりっ子よりも同胞のいる子どもの方が多く，両施設の家族状況は，きわめて対照的な違いが認められたのである。

ベビーホテルや院内保育所でのお泊りに対する子どもの反応を，母親に判定して貰った結果をまとめたのが表Ⅴである。

お泊りを嫌がる子どもも7～8％みられていたが，ベビーホテルでは楽しみにしている子どももみられ，これは兄弟のいない子どもにとって，同年令児とにぎやかに寝つくのは楽しいのかと思われる。そして保育施設では比較的安心して眠っているようであった。これは訪問してみても，おとなが入室してもピクリともせずに寝入っている子どもたちの様子からも，うかがえた事であった。

その他お泊り保育が子どもたちを緊張させ，食欲や排泄などの行動の上に何らかの特別な徴候を表わしていないかと，質問した結果では，例数が少なかったなどもあろうが，そのような事ははっきり出て来なかった。

55年の調査では，夜間保育といってもその形態が一様でなく，キャバレーの保育所では夜半に

帰宅しているし，院内保育所では月に何回という程度のお泊りで，お泊りの子どもの数は少なく，ベビーホテルでは比較的大勢の友達とレギュラーにお泊り保育をしているといった具合で，これを一様に論ずることができないことを改めて認識させられたわけである。

そして保育児の生活環境に大きな違いがあり，夜間保育そのものよりも，夜に子どもを預けねばならない生活のあり方がすでに問題にされなければならないように思われたわけである。

表Ⅰ　都内ベビーホテルの夜間保育実施状況

区	AM0:00まで	AM3:00まで	24時間	合計	以前していた
千代田	2	0	1	3	0
港	1	0	4	5	0
文京	0	0	1	1	0
豊島	0	0	6	6	1
品川	0	0	1	1	0
目黒	0	0	1	1	0
中野	1	0	4	5	0
渋谷	3	0	9	12	0
荒川	1	0	2	3	1
大田	2	0	2	4	0
墨田	0	0	1	1	0
杉並	1	0	5	6	2
葛飾	0	1	0	1	1
板橋	0	0	2	2	0
江戸川	1	0	0	1	0
足立	0	0	1	1	0
練馬	0	1	2	3	0
新宿	1	2	6	9	0
北	1	0	2	3	0
世田谷	1	0	3	4	0
計	15	4	53	72	5
%	20.8	5.6	73.6	100.0	

表Ⅱ　保母からみた母親の育児態度

母親の育児態度	ベビーホテル		院内保育所	
	実数	%	実数	%
良い	25	51	4	36
悪い	20	41	6	55
その他	4	8	1	9
計	49	100	11	100

表Ⅲ　夜間保育に対する保母の考え　　M.A.

保母の考え	ベビーホテル		院内保育所	
	実数	%	実数	%
夜は家庭に帰す方がよい	16	33	11	100
仕事のためなら差支えない	4	8	3	27
夜も昼も変りない	0	0	0	0
その他	7	14	0	0
母の態度によっては園の方が子どものためによい	2			
24時間保育でなければよい	4			
夜間保育以外で問題がある	1			
不明	22	45	0	0

表Ⅳ　夜間保育児の家族状況

家族	ベビーホテル		院内保育所	
	実数	%	実数	%
母・本人	14	29	0	0
父・本人	2	4	0	0
父母・本人	15	31	3	27
父母・きょうだい・本人	2	4	4	36
父母・きょだい・祖父母・本人	0	0	3	27
父母・祖父母・本人	2	4	1	9
不明	14	29	0	0
計	49	100	11	100

表Ⅴ　保育施設における児の宿泊

	子どもの様子	ベビーホテル		院内保育所	
		実数	%	実数	%
保育園での宿泊	いやがる	3	7	1	8
	楽しみ	5	12	0	0
	どちらでもない	22	54	10	84
	その他	11	27	1	8
保育園での睡眠	安心して	35	74	8	67
	寝つきがよくない	2	4	1	8
	夜中に目をさます	2	4	0	0
	わからない	6	13	3	25
	その他	2	4	0	0

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

目的

近年急増してきているわが国の委託育児の実情とその問題点を明らかにし,核家族化がすすみ共働き志向のたかまっている家庭に対して,社会や施策のあり方を考えて行く一助にすることを目的とした。

育児は乳幼児期で終るものではないが,委託育児には次のようなものがあり,主として乳幼児が対象となっている。